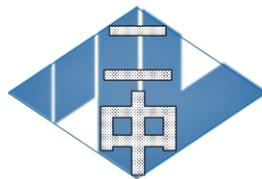


都留第三中学校

Tsuru Daini Junior High School



ISS認証取組開始:2023. 7. 6



Tsuru City Tsuru Daini Junior High School



校訓 『日新』

日に新た, 日々に新たな
自身の姿を目指す

【学校教育目標】

「美しい心」：思いやりの心を持ち,
正しい判断力を持った生徒

「輝く知性」：進んで学び,
豊かな想像力を持った生徒

「たくましい体」：心身を鍛え, 勇気を持った生徒





オール二中で「魅力ある学校づくり」

- 1 「徳育」を重視し、生徒の「美しい心・生きる力」を育む〈凡事徹底／挨拶・品性・礼節〉
- 2 「知育・創育」に焦点を当て、学力定着や授業改善を進める
〈令和の日本型学校教育の実践・教養〉
- 3 「学校安全」を強化し、誰もが安心して生活できる学校をつくる
ISSの推進〈安全・安心・信頼〉

スローガン：“凡事徹底 & 一步踏み出せ”

キャッチフレーズ：【3つのWORK】

FOOTWORK ・ TEAMWORK ・ NETWORK
(機動力) (組織力・結束力) (連体力)

都留二中が目指す姿

- 学校像：学校教育目標の達成に向け、品性と教養のある豊かな心を育む教育活動に取り組む学校
- 教職員像：豊かな心を持つ生徒の育成を目指し、熱意と愛情を持って日々教育活動に取り組む教職員
- 生徒像：自己実現を目指して学習や諸活動に取り組み、品性と教養のある豊かな心を身に付けた生徒

教育目標実現のための教職員の心がけ

- ・ 日々成長する生徒，学び続ける教職員
- ・ 「自分の命は自分で守る教育」を実践
- ・ 「安全，安心，安定」の先に『信頼』あり
- ・ 家庭，地域に貢献する生徒の育成
- ・ 「最悪を想定して，最善の準備を行う」の励行

更にレベルアップを目指す項目

* R5学校評価より

[生徒]	・ 「家庭学習への取組」	55%→65%
	・ 「学校生活が楽しい」	88%→95%
[保護者]	・ 「家庭学習の習慣化」	49%→65%
	・ 「学校は相談しやすい」	77%→85%
	・ 「子供のあいさつ」	76%→85%





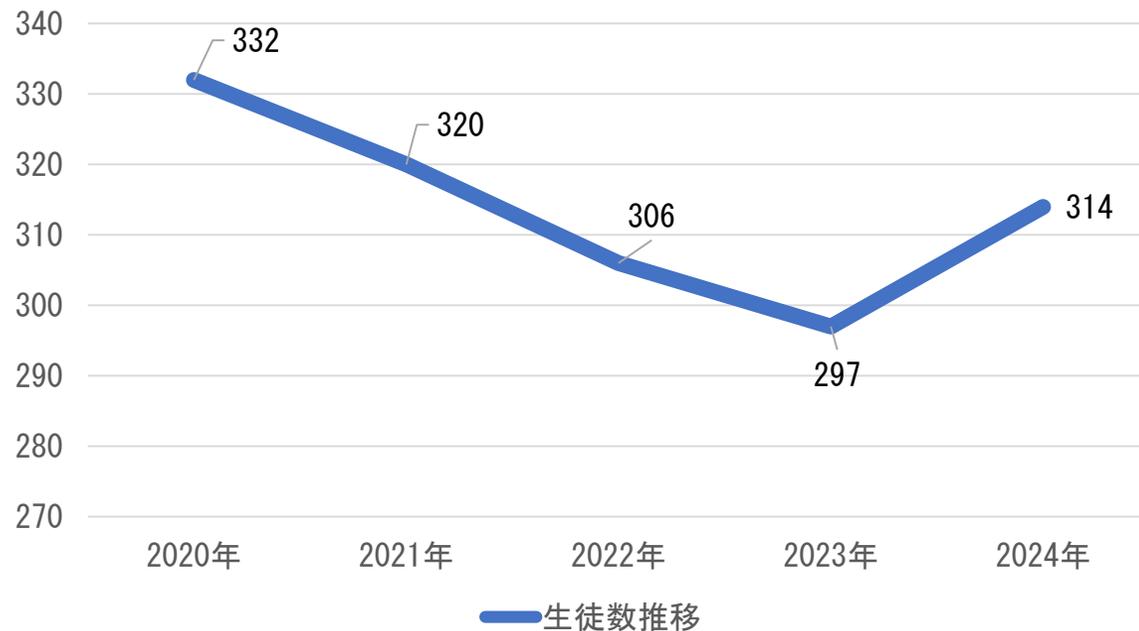
学校概要 # 2

R6生徒数(人)・学級数						
学年	1年	2年	3年	知的	情緒	合計
生徒数	111	104	95	1	3	314
クラス数	4	3	3	1	1	12

R6教職員数(人)	
県費負担教職員	26
市費負担教職員	7
合計	33



都留二中学生数 (人)



全校生徒数は昨年度までは減少傾向にあったが、禾生地区・古川渡地区の宅地造成もあり、本年度は314名と若干の増加傾向にある。1年生4学級，2・3年生3学級，特別支援学級2学級の計12学級編成である。

本年度より，新たな制服を導入し，新入生から段階的に切り替えながら，校則やきまりの改訂（名札廃止，スクールバッグ廃止，混合名簿導入等）を進めている。

地域状況としては，学校が位置する禾生地域をはじめ，各地域の方々や保護者は学校に協力的であり，設備等のハード面，人々との結び付き等のソフト面の両面で支えられている。



学校概要 # 2



都留第二中学校

Tsuru Daini Junior High School



本校は都留市の北部に位置し、学区は大月市と隣接する。

交通の便では、地理的に甲府方面や富士吉田方面、更には東京方面にも比較的アクセスが良く、市内外への通勤通学者も多い。

学区には、家電量販店やスーパーマーケット、ホームセンター、ファーストフード店等が進出し、住宅や人口が増加している地区もある。

今年創立59年を迎える。学区は広範囲にわたり、生徒は5つの小学校区（禾生第一小、禾生第二小、宝小、谷村第一小の一部、旧旭小）から通学している。

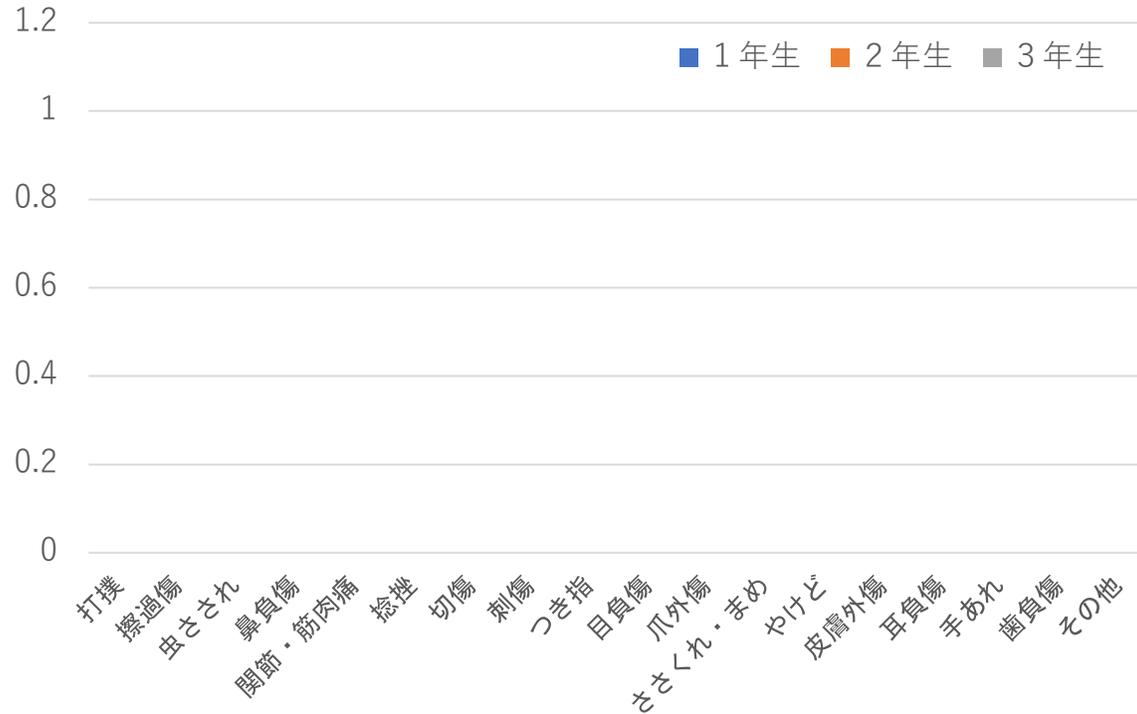
生徒の通学手段は、徒歩・自転車・電車・スクールバスの4形態で、学区の中央を国道R139と中央自動車道が横断していることから、通学時の国道交通量及び高速道路の側道の交通量が大変多く、交通安全指導を徹底している。



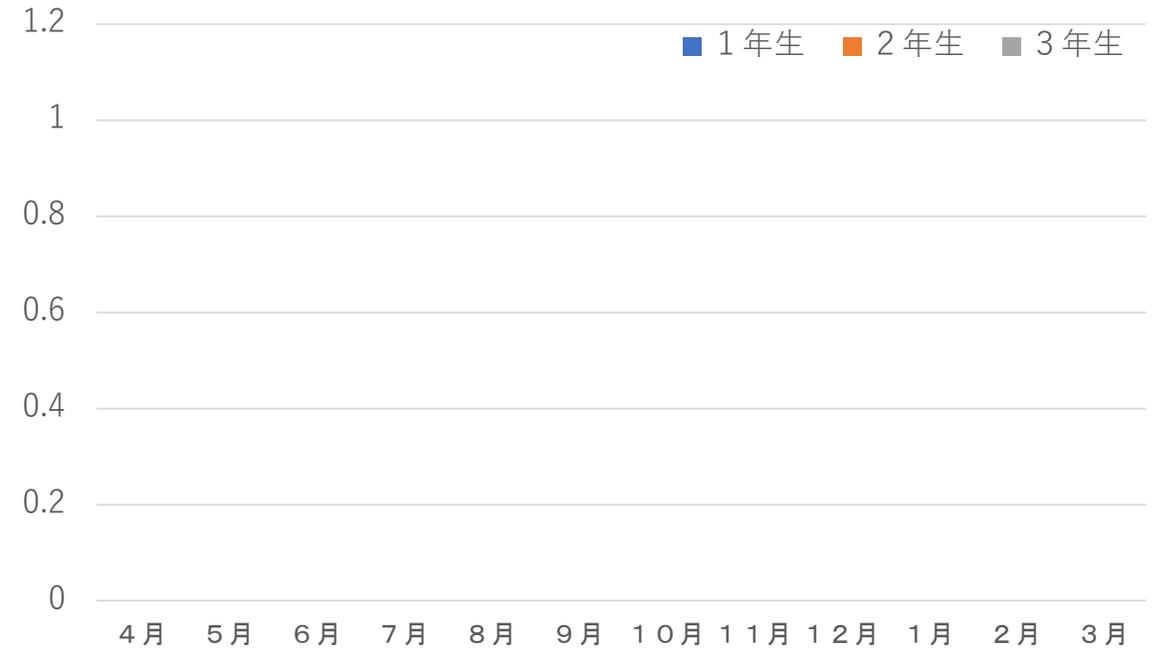


学校概要 # 3 - (1) 生徒の外傷状況 (2022年度)

2022年度 保健室来室状況(学年別外傷種類)



2022年度 保健室来室状況(時期・学年別外傷件数)



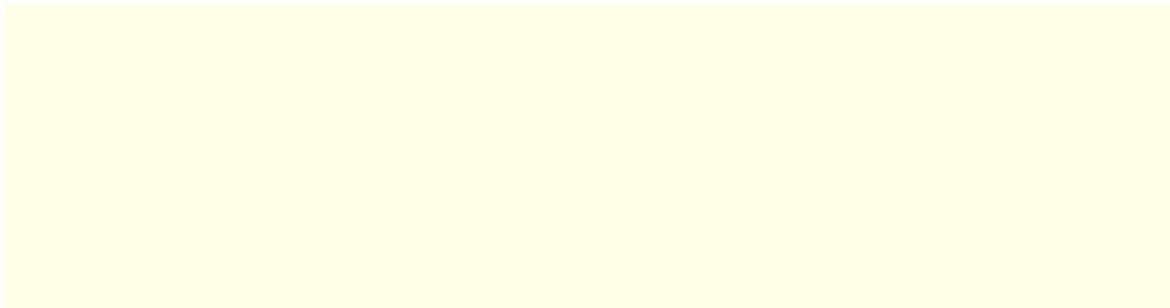
学校概要 # 3 - (2) 生徒の外傷状況 (2022年度)

2022年度 保健室来室状況 (場所・学年別外傷件数)



都留第三中学校
Tsuru Daini Junior High School

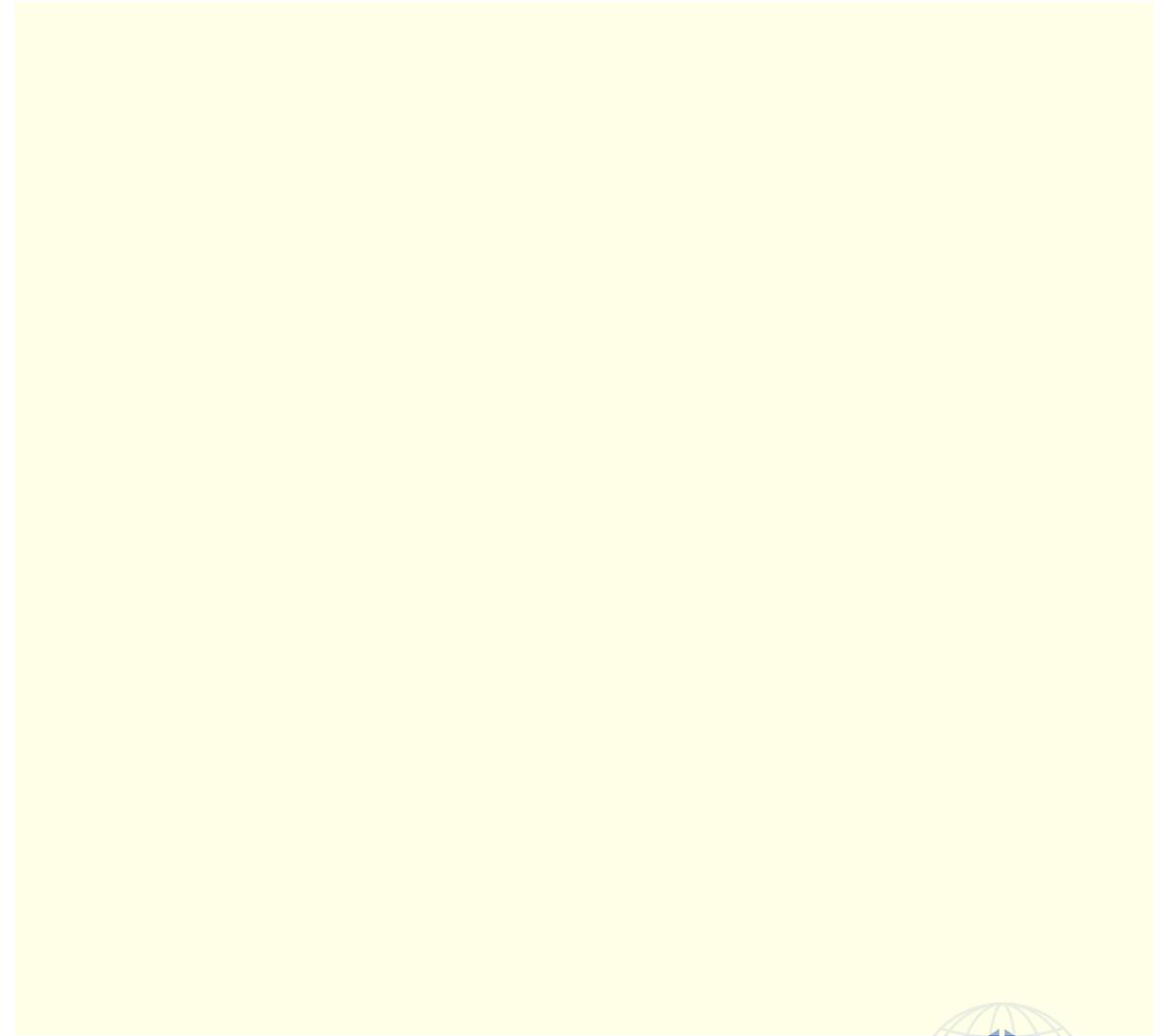
2022年度 保健室来室状況 (発生時間帯・学年別外傷件数)



学校概要 # 3 - (3) 生徒の外傷状況 (2022年度)



(画像：通常教室の様子
→机配置，ロッカーや個人荷
物の様子) 2～4枚





ISSプロジェクトチーム(33名)の委嘱



取組宣言書簡提出



来賓：堀内市長・小林教育長・白石代表



パーパー先生(ニュージーランド)とのオンライン

[プロジェクトチームよりISSの説明]

皆さんは安心・安全とはなんだと思いますか？

辞書的な意味では安全とは、危なくないこと。物事が損傷・損害・危害を受けない、または受ける心配のないこと。

安心とは、気にかかる事がなく、またはなくなって、心が安らかなこと。物事が安全・完全で、人に不安を感じさせないこととあります。

私たちが思う安全・安心とは「気持ちの良い学校生活を送ること」だと思います。

そのためには、相手の立場や考えに寄り添い、都留二中の危険な事をみんなで考える事だと私達は思いました。

都留第二中学校ISS取組宣言

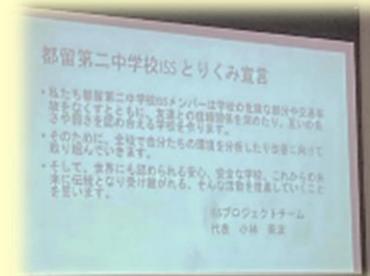
(生徒による取組表明：英語speech)

「私たち都留第二中学校ISSメンバーは、学校の危険な部分や交通事故をなくすとともに、友達との信頼関係を深め、互いの良さや弱さを認め合える学校をつくります。」

「そのために、全校で自分たちの環境を分析し、改善に向けて取り組んでいきます。」

「そして、世界にも認められる安全・安心な学校として、これからの未来に伝統となり受け継がれる、そんな活動を推進していくことを誓います。」

都留二中ISSプロジェクトチーム
代表 小林 美波





【校内の安全安心チーム・校外の安全安心チーム・心の安全安心チーム】

[取組内容や方法を振り返り、結果を考察して、新たな課題を見出す]

- 振り返りアンケート結果の考察と新たな課題設定と取組の周知
 - 「ISSニュース」(Web版)の配信(保護者や地域へも発信)
 - 帰りの会等の学級活動を利用したISS集会で周知
 - 新たな課題設定と取組活動の実施計画

[取組を評価し、全校共有]

- ① 避難訓練の目標を設定し、訓練後全生徒に振り返りアンケート(自己評価)実施→結果を全校共有
- ② **〇〇〇により、各取り組みの振り返りを実施**
→

See

自ら行う安全診断
(問題把握)

[全校生徒の実態を知る]

- ・プロジェクトチーム内で、学校内の現状課題を想定(保健室利用状況、校区内の事故事件発生状況、災害時ハザードマップ等の情報確認)
- ・全校生徒へ「ISSアンケート(仮)」を計画

Action

振り返り・考察

Plan

対策・取組検討

[調査結果を考察し、課題を設定]

- ・ISSアンケートの計画(内容、方法、集計、考察、問題点の共有、課題設定)→ISS校内委員会にて提案(先生方の理解を得るとともに、アドバイスをいただきながら計画)→夏休み期間を利用
- ・アンケート結果、問題点及び課題を全校生徒で共有(学園祭:保護者への発信)
- ・取組活動の検討
- ・取組の評価方法の検討

Check

取組評価

Do

全校共有・取組活動

[取組内容や方法の周知、期間や場面を設定して実際の取組]

- ・学園祭での発表(Webアンケート結果の報告、問題点確認と課題の共有)
- ・災害時の危険回避行動力を高める活動

〈校内の安全安心〉

- ① 校内危険箇所map作成
- ② 教室内の整理整頓
- ③ 階段等での危険防止
- ④ 危機意識の高揚
→ポスター・標語

〈校外の安全安心〉

- ① 二中ハザードmap作成
→保護者・地域の協力
- ② 交通ルール・マナーの啓発
→全校集会の活用
→ポスター・標語→地域掲示

〈心の安全安心〉

- ① SNS学習会の開催
- ② GIGAタブレットを活用しての「心のつぶやき」サイトの開設
- ③ 心の授業等
→先生方と協働

ISSプロジェクトチームからのお願い(全校生徒へ協力依頼)

より安全で安心な学校づくりをどこから始めればよいのか、プロジェクトチームで意見を出し合った結果、まずは全校に対して実態調査を行うということになりました。

そこで、次の項目について全校生徒に回答してもらい、その上で具体的な対策を考えようと思います。

「校内の安全・安心」チーム

- ・ 教室内の過ごし方、物の置き方調査
- ・ 校内(含む教室)でのヒヤット(危険)体験、目撃調査(場所や時間も含めて)
- ・ 実際のケガ発生状況調査・目撃調査
- ・ 校内の危険箇所だと考えられる場所調査

「校外の安全・安心」チーム

- ・ 通学方法
- ・ ヒヤット(危険)体験、目撃調査(場所や時間も含めて)
- ・ 交通ルール調査(ヘルメット着用など自分や周りの人も含めて)
- ・ 公共のマナーに反する行動の目撃などの実態調査

「こころの安全・安心」チーム

- ・ 悩み不安の有無の調査
- ・ いじめ、悪口、いやがらせ、からかい、いやなこと体験、目撃調査とその具体例
- ・ 相談出来る人の有無調査

夏休みに全校生徒に協力してほしいこと(お願い)

次のQRコードをタブレットで呼び込んで、「校内の安全安心」「校外の安全安心」「こころの安全安心」の3項目についての23の質問に教えてください。締め切りは8月21日(月)です。みなさんの協力をお願いします。



ISS 夏休みの WEB 調査アンケートの結果報告

ISS プロジェクトチーム

ISS 夏休みの WEB 調査アンケートの結果報告

学校生活での実際のケガ、ケガの目撃割合

- 実際にケガをした、ケガを目撃したが全体の約30%
- 3人に一人がケガをした、ケガを目撃したと答えていました。
- みなさんはこの数字を「多い」と思いますか？「なんだ少ない」と思いますか？
- 私たち ISS の願いはこの数字を限りなく「0（ゼロ）」に近づけることです。

ケガをした、ケガを目撃した場所

- ケガ発生、目撃例が多いのは、一番長く過ごす**教室**
- 人が行き交う狭い**階段**
- いつでもどこでもケガがおこる可能性がある

夏休み中に全校生徒にWeb調査をした結果を報告します。

この実際にケガをした、ケガを目撃した人(30%)を限りなく「0（ゼロ）」に近づけることが私たちの目的です。

ケガをした(目撃)場所で多いのは、過ごす時間の長い教室や人が行き交う狭い階段、部活等で使用する校庭や体育館です。

ケガの原因、状況は…

以上の結果から、ケガ発生原因のキーワードは…

- ぶつかる
- つまづく、滑る
- 飛び降りる
- ふざける
- などが、あげられます。

学校生活で「危ない」と感じた経験

「危ない」と感じた、その場所は…

場所	割合
教室	26
廊下	26
階段・校舎内外の段差	28
校庭のスタンド&スロープ	9
校舎周り	6
弓道部練習場周辺	2
体育館	2
二号館入り口	2

ケガの発生原因のキーワードは、「ぶつかる」「つまづく・滑る」「飛び降りる」「ふざける」などです。

学校内で危険と感じる場所は、教室・廊下・階段が多いです。

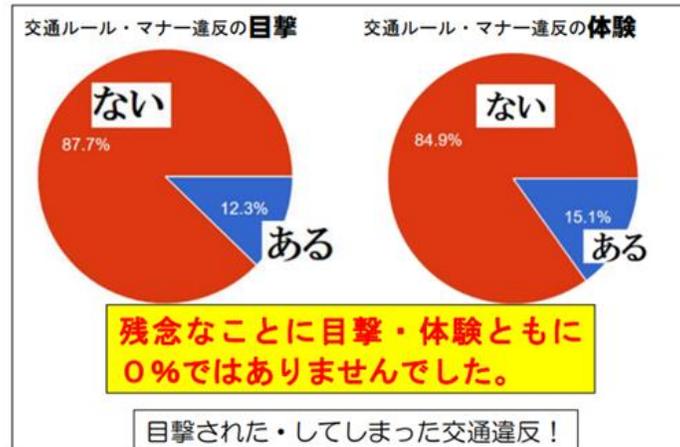
どの時間帯に「危ない」と思う経験をしたか

圧倒的に
・休み時間
・昼休み

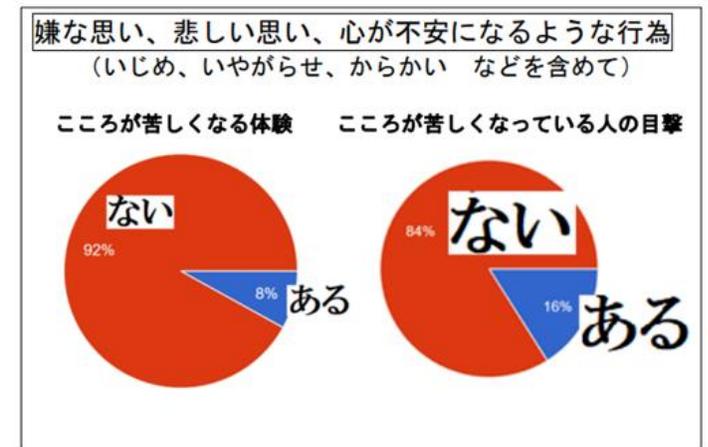
「危ない」と感じた時間帯は、圧倒的に休み時間や昼休みです。



教室内で、通路がカバンで塞がれている、ロッカーに詰め込まれているものが飛び出していることがありますか？

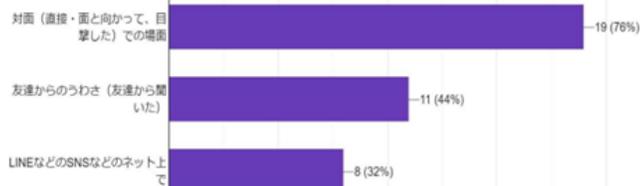


学校外では、交通ルール・マナー違反が15%ほど確認されました。残念ながら「0%」ではありません。



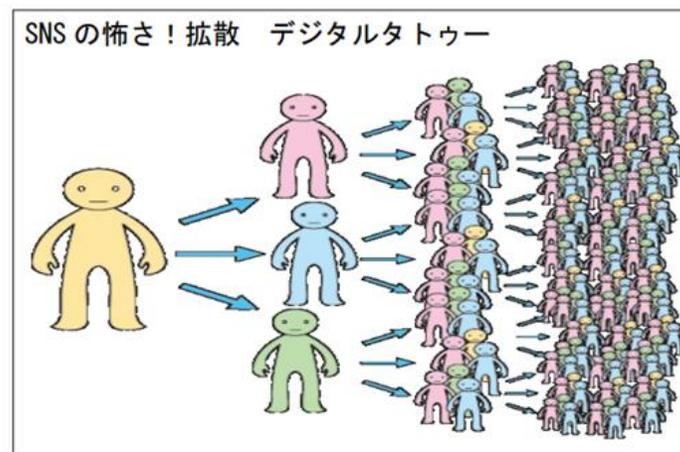
嫌な思い・悲しい思いをして不安になった人が8%。その場面を目撃した人が16%いました。

⑱ それは、どのような場面でのことですか？
(25件の回答)

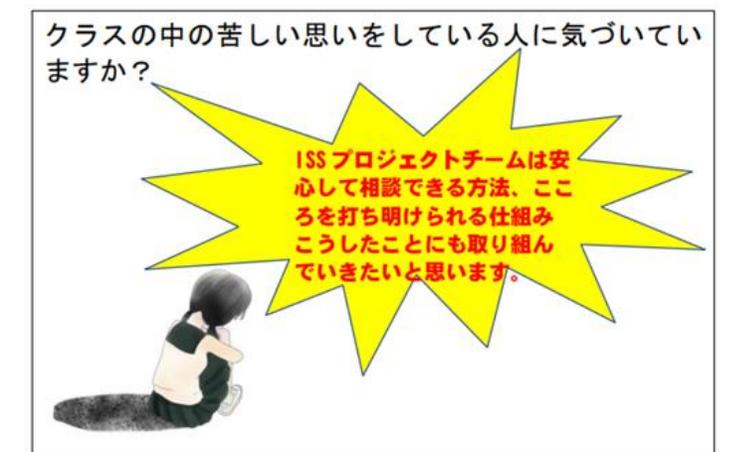


**悪口
勝手に写真投稿
根拠のないうわさ**

25件の回答の内、どのような場面で心が苦しい思いをしたかについては、「悪口」「勝手に写真投稿」「根拠のないうわさ」からでした。



私たちは、SNSの怖さとして「情報の拡散」「デジタルタトゥー」について、しっかりと理解しているでしょうか？



もっと安全・安心な都留二中にするために、だれでも心を打ち明けられる学校にしていきたいです。



文化部発表部門のトップを飾る
「ISSチーム発表」



保護者用の100席はすでに満員



ISSチームのパフォーマンス



夏休み中に行った「WEB調査アンケート」（安全診断）の結果報告会として、どのようなところ・場面・原因により私たちはケガをするのだろうかについて発表した。

7月に海外審査員バーバー先生とつながりながら、JISC白石先生や堀内市長・小林教育長さんたちに応援してもらい、全校による取組宣言集会が開催できたこともあり、生徒みんなの意識も十分に高まってきている。この学園祭で保護者へも直接発信ができたことは、大きな成果だと言える。生徒たちの真剣さ、充実感に満ちた表情が印象的だった。

アンケート結果による「身の回りの危険」のプレゼンに加え、普段の何気ない生活における危険な場面を劇化し、より具体的に伝えていた。フロアの生徒たちの受け取りもとても好評で、学校におけるケガの場面や普段の地域における生活場面での危険な様子について表現していた。特に、自転車利用が多い中学生なので、事故は少ないが危険な乗り方や交通ルールを守ることの大切さについても伝えていた。

この活動は、新聞・テレビのメディアに県内初国際認証へ向けての生徒主体の取組として報道された。

今回、都留二中としての課題が共有されたことで、この後、具体的な取組が展開される。年度の区切りはあるにせよ、世界に認められる家庭・地域と連携した活動として十分な達成感が得られるものと期待される。

【振り返り】（アンケート内容）：回答数 258名

質問1. 今回の避難訓練で、周囲の生徒たちの訓練に臨む姿をどのように評価しますか。

質問2. No.1の評価理由

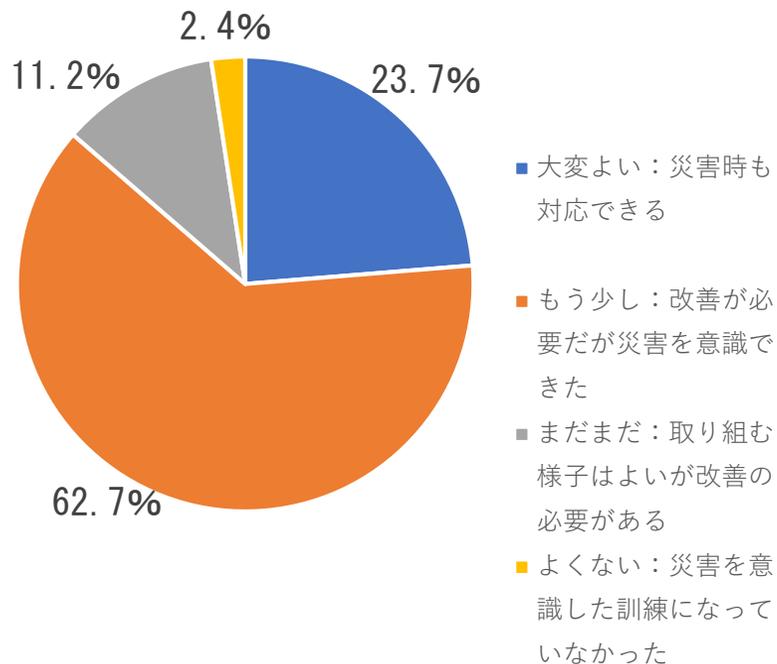
質問3. もし実際に災害が起きた場合、どんなことを大事に行動することが自分の「命」を守ることになると考えますか。

質問4. 家から学校までの通学路において、災害が起きたときに危険だと予想できる場所がありますか。

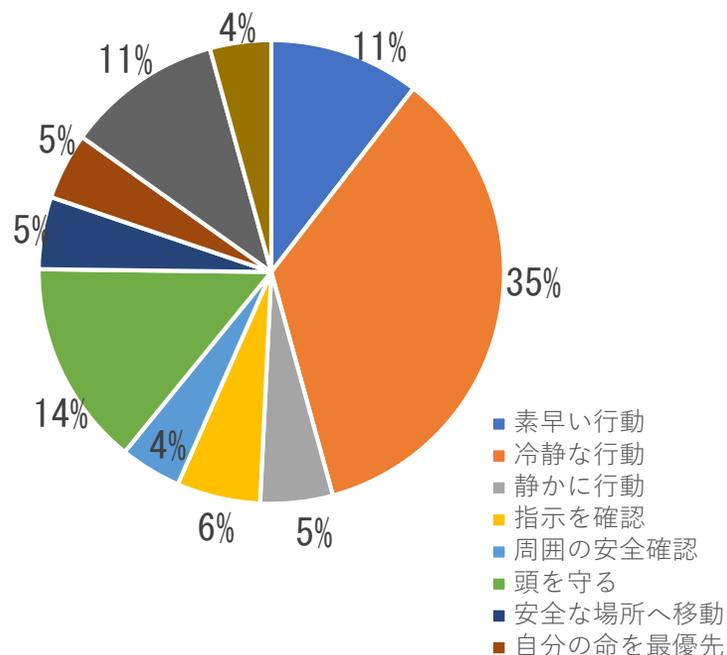
質問5. 危険だと想定する理由

質問6. 災害が起きたとき、あなたが地域住民の一人として他の人々と協力して何ができると考えますか。

1. 訓練に臨む姿



3. 自分の命を守るために



4. 通学路における災害時に危険と思われる箇所

(42人回答)

1	斜面土砂崩れの危険性	14
2	河川氾濫の危険性	13
3	道に面しているブロック塀倒壊の危険性	3
4	台風時等の倒木の危険性	2
5	建物倒壊の危険性	3
6	その他(道路・交通機関等)	7

ISSプロジェクトチームからのお知らせ → 保護者・地域へも発信

第1回、避難訓練のWEB振り返りアンケートの際に、みなさんが教えてくれた大地震や大雨などの災害時に危険だと思われる場所、日常の登下校や生活の中で気を付けたほうが良いと思われる場所をWEB（グーグルアース）に1のマークでアップしました。

2年生の〇〇さんや□□さんが危険箇所の詳細を聞き取る調査を行い、災害だけでなく、日常生活、登下校時などにも「安全・安心」のために注意した方が良いと思われる場所を明らかにしてくれました。

QRコードをタブレットやスマートフォンなどで読み取ってもらうとグーグルアースの「二中ハザード（災害）&危険箇所マップ」にアクセスできます。

ぜひ、一度アクセスして自分の家の周りや通学路などの危険と思われる箇所の確認をしてみてください。

このマップは今後もみなさんから情報を寄せていただき、随時、更新してより有意義なマップに進化させ、都留二中の「安全・安心」のために活用してもらいたいと思います。



マップアクセスQRコード



第2回避難訓練振り返り映像 (ISSニュース)

「その時、あなたはどこにいましたか」

- ①教室 ②廊下 ③グラウンド ④トイレ
 - ⑤渡り廊下 ⑥階段
- 地震は、私たちがいる場所を選ばずにやってくる！

「その時、あなたはどのような行動をとりましたか」

- ①机の下にもぐった ②姿勢を低くした
- ◎窓から離れたというのはとても正しい行動です。
▼うろろろするだけで、何もできなかったという人もいた
・グラウンドやトイレにいた人たちが、姿勢を低くすることはしても、しっかり頭を守る体制は取れていなかったようです。
・地震発生時においては、しゃがむだけでなく、四つん這いになってしっかり頭を守る（シェイクアウト）必要があります。
▼グラウンドやトイレにいた人たちの中に、「机の下にもぐった」と回答している人がいます。近くの教室に入ってしまったようです。→どうしてよいかわからずに、いつもの避難訓練のような行動をとってしまったのでしょうか。

「訓練において、より実践的な判断力を普段から身に付けておくことが重要！」

【評価】

- ◎第1回避難訓練の振り返りで明らかになった各クラスの課題を意識して行動できたと回答している人→99%
- ▼今後も、より正しい判断ができるように、命を守るということを真剣に考えていく必要がある。

改善すべき点

- ・慌ててしまった 9
- ・おしゃべりしてしまった 68
- ・避難に時間がかかってしまった 21
- ・訓練放送が聞こえなかった 12
(トイレや校庭)
- ・適切な行動がとれなかった 9
- ・防災頭巾を忘れた 3



災害時には、放送がない・情報がない場面が多く、自分で命を守るための判断をしなければならない

改善すべき具体的行動

- ・周囲を確認せず、窓の近くへ行ってしまった
- ・廊下から直接避難せずに、頭巾を取りに教室へ戻ってしまった
- ・机の脚をつかまなかった
- ・自ら考えた避難行動がとれなかった
- ・慌てて走って避難してしまった
- ・必要がないことをしゃべってしまった
- ・体育館に避難したら、気持ち緩んでしまった
- ・即座に頭を守る行動がとれなかった

地震時に、建物の中に戻るのは大変危険な行動と言える。「お・か・し・も」の意味をしっかりと理解し、正しい行動がとれるようにしましょう。



都留二中の生徒・保護者、地域の皆様方へ

学区の危険箇所を教えてください！

ISSプロジェクトチームの「校外の安全・安心」担当からお願いがあります。

校外チームでは3学期からの取り組みとして都留二中学区の危険箇所マップの充実を考えています。

災害時や登下校の交通事故など「もしかしたら、ここで」と予想できるような場所や実際に被害や事故が発生した場所の情報を全校生徒や保護者、地域の方に提供してもらい、今、グーグルマップでWEB上にアップされている都留二中のハザードマップを充実させて多くの人に見てもらえれば少しでも災害被害や交通事故被害を減らしていけると考えました。



ハザードマップ
QRコード

※情報の提供の仕方

「ロイノートにログイン」⇒「ISS 災害危険箇所 生活交通危険箇所 募集」（参加コード「81166」）⇒「災害危険箇所 生活交通危険箇所」⇒「危険箇所情報カード」⇒「資料箱 ISS危険箇所」⇒その中のクリーム色のカードに例文を見ながら危険箇所の情報を入力して、提出箱→「危険箇所情報」に提出してください。

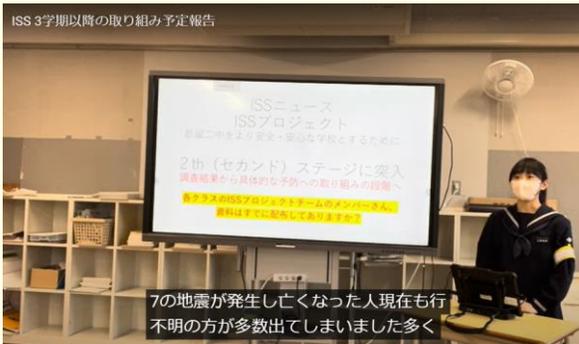
また、保護者の皆さん・地域の中で協力していただける方は右のQRコードを読み取っていただくとグーグルフォームにジャンプ（WEBサイトへ移動）してアンケート形式で情報をお寄せいただくことも可能です。



グーグルフォームアンケートQR

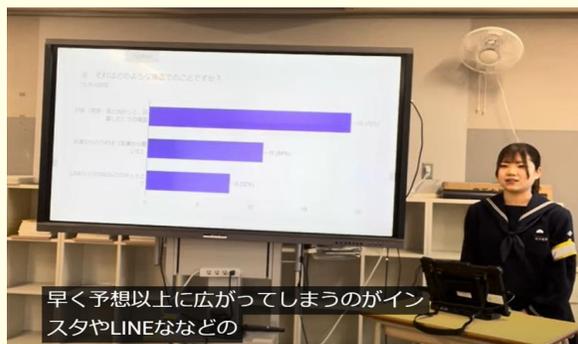
是非、都留二中の安全・安心のためにご協力をお願いします。





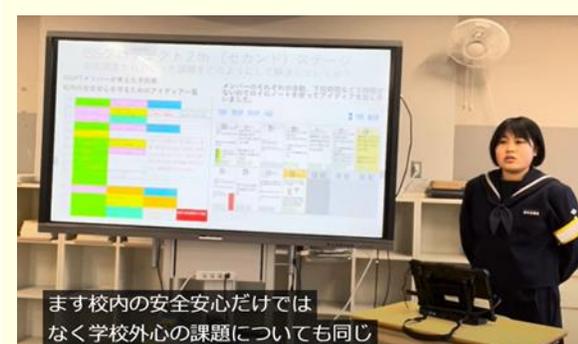
この冬休みには、最大震度7の能登半島地震が発生し、大変多くの方が被災してしまいました。地震災害に対して、より実践的な訓練を行おうとしている私たちにとっては、とても他人事とは思えません。より一層、安全意識を高めていきましょう。

7の地震が発生しなくなった人現在も不明の方が多数出てしまいました多く



回答にあった、インスタやLINE等のSNSへの投稿は、大変危険だと考

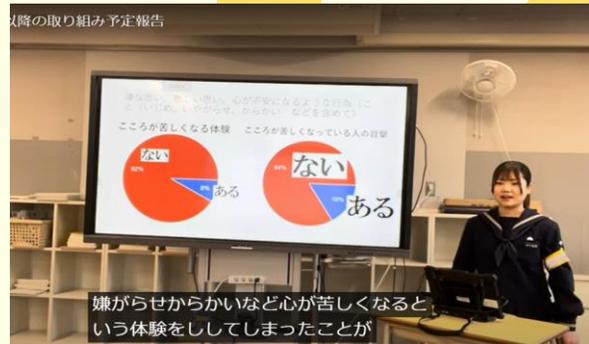
え、ISSプロジェクトチームは「SNS学習会」を開催しました。様々なトラブルを防止するには、私たちや学校だけでは完全な解決はできません。親や周囲の大人たちの理解と協力が必要です。



ISSプロジェクト外チームとして、調査した課題への解決策を話し合いました。ISSプロジェクト

の第2ステージとして、[校内の安全]①募集した標語とポスターの校内掲示、②教室内の整理整頓の呼びかけ、③階段の滑り止め設置と衝突防止の表示を取組みます。

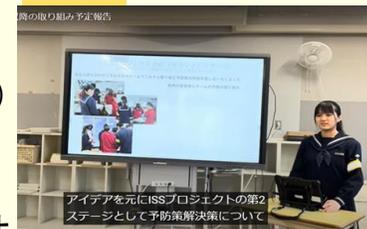
都留二中ISSプロジェクト、セカンドステージへ突入。調査結果から具体的な「予防への取組の設定」へ。校内で起こるケガの状況を共有し、さらに各クラスで2~3人の人が心が苦しくなる体験や場面に遭遇していることがわかりました。



さらに、心が苦しくなった時に、相談できる人が誰もいないと回答した人がいました。とても心配なことです。先生方とも相談してGIGAタブレットを活用して、いつでも心の苦しさを伝えられる「心のつづやき」サイトを開設しました。



[校外の安全] ①募集した標語やポスターを校区内の施設(駅など)へ掲示、②交通ルールや公共のマナーについて実態調査を行い、課題に合わせた学習会を開催、③「二中ハザードマップ」への情報の充実。[心の安全]①ロケットの「心のつづやき」サイトの周知と活用、②募集した標語・ポスターの校内掲示、③先生方との面談や心に関する授業などを先生方と相談していきます。



- * 「南都留地区義務教育振興会議」・・・[構成]◆南都留地区8教育委員会：都留市，富士吉田市，西桂町，富士河口湖町，鳴沢村，忍野村，山中湖村，道志村
◆中学校：14校 ◆小学校：28校 ◆南都留地区PTA連合会（各42単PTA）
- * 梶原校長より，都留二中の実践報告の一事例として発表

(1) ISSとは：都留市がWHOのセーフ・コミュニティの認証
「安全で安心な学校」 国際認証取得を目指す

(2) 具体的には：

体のケガ → 学校内外の危険箇所の改善

心のケガ → いじめやトラブルの未然防止

これらの取り組みにより，地域と連携しながら「安全な学校づくり」を全校体制で推し進めている

※ 学園祭で，ISS代表生徒の報告会と寸劇で注意喚起

※ 都留市内では，都留二中と谷一小が推進校に指定

(3) ISS取り組み開始集会：：令和5年7月6日（木）

・全校生徒が体育館に集合

・市長さん，教育長さん，市教委の方々の出席

白石さん（日本セーフコミュニティ推進機構代表）指導

都留市：セーフ・コミュニティ

「安全で安心なまち」を地域が一带となって進める取組
（国際認証を取得 2021年8月 国内7番目）

その学校版として

都留二中：インターナショナル・セーフ・スクール

「安全で安心な学校」づくりに向け，学校内外で継続的に進める取組（国際認証取得を目指す）

(4) 今後の見通し

・教師主導でなく，生徒が主体となって進める

「ISSプロジェクトメンバー 33名」のリーダーシップ

・「学校生活に関するアンケート」の形式の見直し

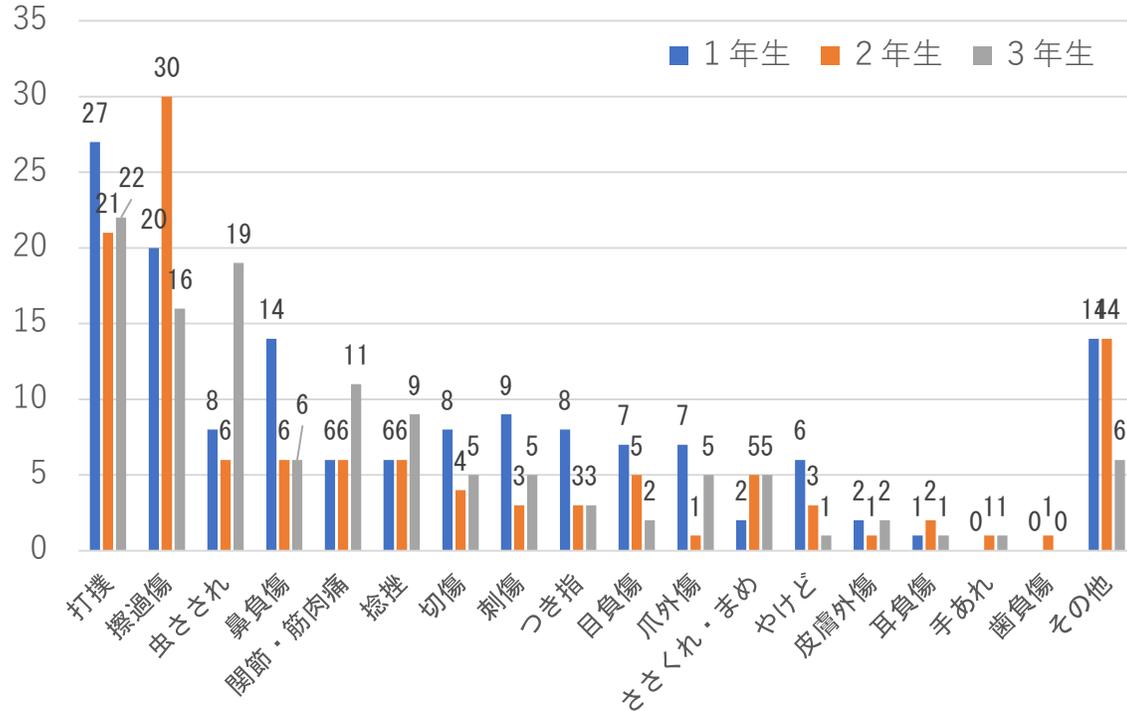
・「避難訓練」の振り返りと次回への改善点を提起

・「持続可能な地域連携」を意識した活動

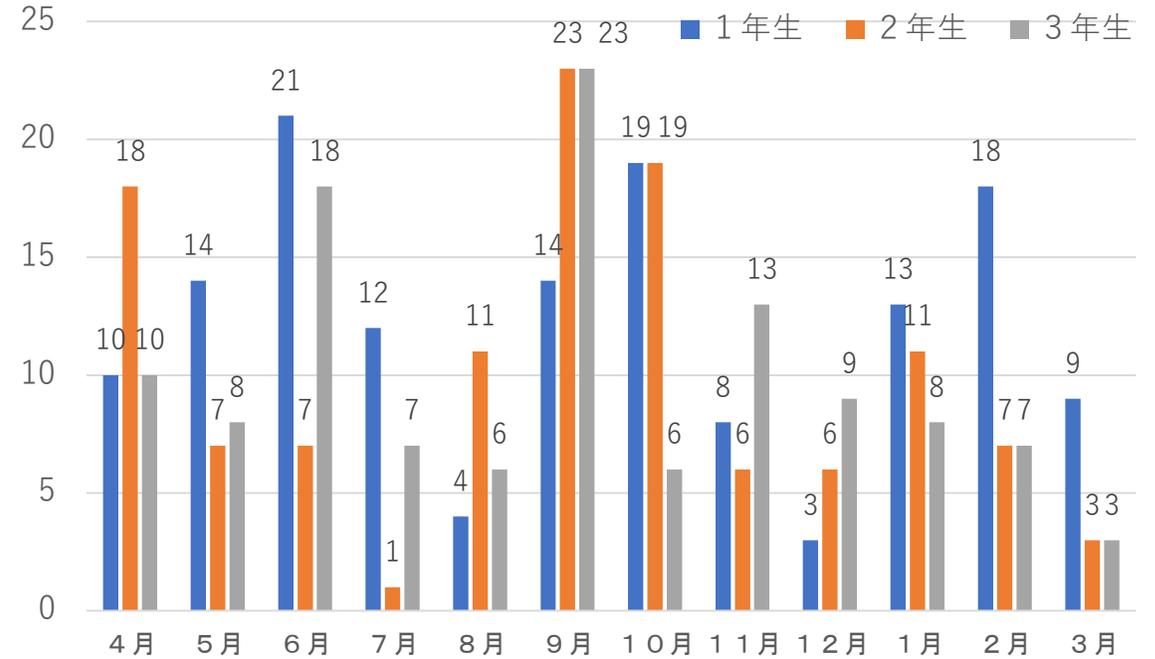
数年先を見据え，認証取得を目指す

・推進校以外の小中学校も将来的には取り組みを開始

2023年度 保健室来室状況(学年別外傷種類)



2023年度 保健室来室状況(時期・学年別外傷件数)



学校生活において、各学年ともに擦過傷（擦り傷）・切傷を負ってしまう生徒が多い。

中学生になり、活動場面が広がり、体育実技や部活動においても、より活発で俊敏な動きが増えたことにより、打撲・筋肉痛・捻挫なども多くなっている。

虫刺されについては、屋外での活動も多く、体育館やグラウンドが川沿いにあるためだと思われる。

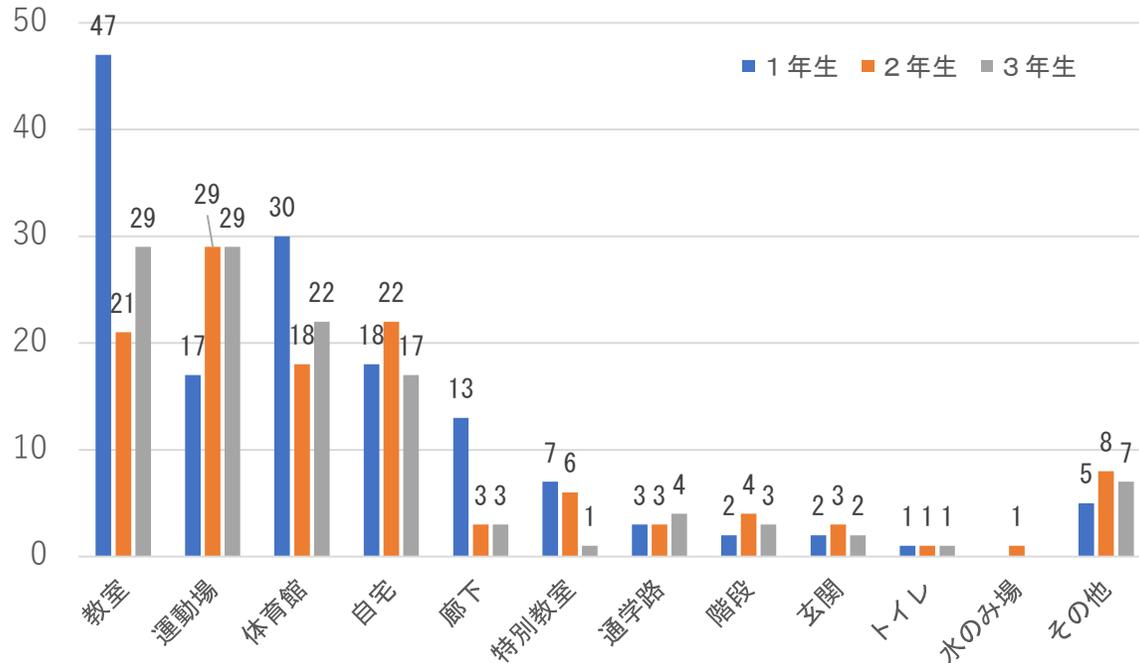
外傷（ケガ）の多い時期としては、9・10月、6月、4月、5月が特徴的である。

いずれも、部活動のスポーツ大会が開催される時期であり、普段よりも、より活発な活動が要求される場面だと考える。

1年生にとっては、入学当初から体格差の大きい先輩たちの動きに少しでも追いつこうとすることで、ケガを負ってしまうと思われる。



2023年度 保健室来室状況（場所・学年別外傷件数）

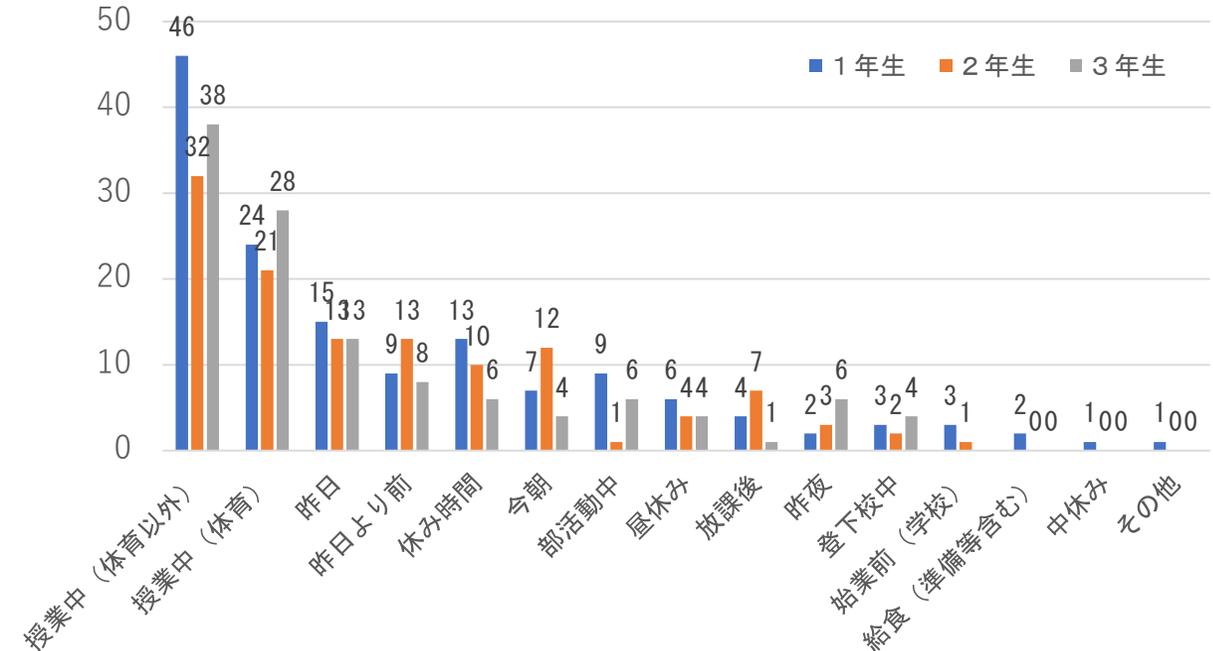


やはり、グラウンドと体育館でのケガが多いが、それと並び特徴的なのが、教室におけるケガが多いことである。

学年が上がるにつれて、体格も大きくなり、動きもより俊敏なることに比例しケガ件数が増えている。

教室におけるケガで、1年生が多いのは、小学校の頃より学級人数が増えたこと、一人一人の荷物が多くなったことなどで教室での生活環境が狭くなったことが要因だと考えられる。

2023年度 保健室来室状況（発生時間帯・学年別件数）



ケガ発生時間帯としては、授業時間中の発生が多い。活動が多い体育の時間もさることながら、通常の授業においても多い状況が確認できる。

体育館やグラウンドだけではなく、普通教室においてもケガが発生している。教室におけるケガで、1年生が多いのは、小学校の頃より学級人数が増えたこと、一人一人の荷物が多くなったことなどで教室での生活環境が狭くなったことが要因だと考えられる。

教室や特別教室での生活が多いことから、普段からの生活環境の整備（整理整頓）と危険回避の意識を高めることが必要と考えられる。



画像：環境整備において、前年度より変化した場面
（教室環境，階段や廊下環境，生徒たちの態度 等）



[取組内容や方法を振り返り，結果を考察して，新たな課題を見出す]

Action
振り返り・考察

See
自ら行う安全診断
(問題把握)

[全校生徒の実態を知る]

Plan
対策・取組検討

[取り組んだ結果を評価し，全校で共有する]

Check
取組評価

Do
全校共有・取組活動

[調査結果を考察し，課題を設定]

[検討した取組内容や方法を全校に周知し，期間や場面を設定して実際に取り組む]





[取組内容や方法を振り返り，結果を考察して，新たな課題を見出す]

Action
振り返り・考察

See
自ら行う安全診断
(問題把握)

[全校生徒の実態を知る]

Plan
対策・取組検討

[取り組んだ結果を評価し，全校で共有する]

Check
取組評価

Do
全校共有・取組活動

[調査結果を考察し，課題を設定]

[検討した取組内容や方法を全校に周知し，期間や場面を設定して実際に取り組む]





[取組内容や方法を振り返り，結果を考察して，新たな課題を見出す]

Action
振り返り・考察

See
自ら行う安全診断
(問題把握)

[全校生徒の実態を知る]

Plan
対策・取組検討

[取り組んだ結果を評価し，全校で共有する]

Check
取組評価

Do
全校共有・取組活動

[調査結果を考察し，課題を設定]

[検討した取組内容や方法を全校に周知し，期間や場面を設定して実際に取り組む]



2024年度

都留二中ISS活動



都留第二中学校
Tsuru Daini Junior High School

27

